

## 2025年度前期における「学生による授業評価アンケート」に対するコメント

2025年度前期における「学生による授業評価アンケート」の実施に際しましては、ご協力いただきました学生の皆様並びに非常勤講師の皆様、専任教員の皆様に感謝申し上げます。以下に、2025年度前期「学生による授業評価アンケート」の全体の結果を概観していくことにいたします。

まず回答者数と回答率ですが、全科目における延べ受講者数10097人に対しまして総回答者数は6044人となりましたので、回答率は約60%となりました。直近の2024年度後期と比較しますと、5%のアップとなりましたが、昨年度の前期と比較しますと回答率は約3%のダウンとなりました。

本アンケートの回答率に関しましては、紙媒体からユニバーサルパスポートを用いての実施に変更して以来、40%代後半から50%代後半と低い水準を推移しておりました。こうした状況を改善すべく、FD・SD委員会としましては回答率の向上を重要課題と位置付け、改善に向けての工夫を重ね、皆様に協力依頼を行ってまいりました。このような経緯のなか、今回に関しましては足踏み状態となってしまいましたが、昨年度よりようやく改善傾向に転じて参りました。現在、FD・SD委員会では、回答率80%を目標として、回答者である学生さんの立場に立ち、より回答しやすい方法で、学修上有益なフィードバックが得られる授業評価アンケートをめざして、検討を進めております。どうかご理解いただきまして、引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、2025年度前期におきましても回答率は80%未満でしたので、本アンケート結果の解釈には慎重であるべきことを踏まえまして、以下に今年度前期における全体的な特徴を述べていくことにします。まずA領域の「あなた自身について」ですが、平均値が最も高かったのは「①この授業への出席割合」(4.47)であり、次いで「②授業に積極的に参加した」(4.30)でした。また、「⑥この授業全般において満足である」(4.19)、「④授業を受けて関連領域をさらに深く勉強したくなった」(4.05)、「⑤シラバスに掲げられている到達目標を達成できそうだと感じる」(4.03)の3項目においても、平均値は4を超えておりました。このように、A領域6項目中5項目において、5段階評価における平均値が4を超えておりました。こうした傾向はここ数年同様であることから考えますと、多くの学生さんは「授業の出席率は非常に高く、尚且つ、授業には積極的に参加しており、そして、授業で学修した領域をさらに深く学びたいと思うようになり、シラバスに掲げられている到達目標を達成できそうだと感じている」、このように自身の学修状況を認識していることがうかがえます。そして、学修状況をこのように認識しているために、授業全般に対する満足度も高いものになっていたのだと思われまます。本アンケート結果からは、このように推測することが可能かと思われまます。

次に、B領域の「授業や教員の教え方について」ですが、平均値が最も高かったのは「⑩授業の学習目標を学生に伝えていた」(4.23)と「⑦学生が集中しやすい授業だった」(4.22)の2項目でした。また、「⑨学生の理解度を確認しながら授業が行われていた」の平均値は4.05であり、「⑧授業は質問や意見などを発言しやすい様子であった」の平均値は3.93でした。このようにほぼ全項目において、5段階評価における平均値が4を超えておりました。こうした傾向は、A領域同様、ここ数年同様であることから考えますと、多くの学生さんは教員の授業運営に対する認識として、「教員は学習目標を伝え、個々の受講生の理解度に気を配りながら、授業に集中できるように教室をコントロールし、質問にも応じていた」というように認識していたと推測されまます。

A領域、B領域の結果をまとめますと、「授業中において、積極的に集中して取り組み、到達目標を達成できそうな程度に学修できており、さらに学んでいきたいと思っている」、そして「教員は受講生が学習しやすい環境を整えている」、本学の多くの学生さんは授業に対してこのような認識を持っていることが推測されまます。また、授業評価におけるこうした傾向がここ数年同様であることから考えますと、真摯な姿勢や態度をもって学生も教員も共に授業に取り組んでいるということが、本学における教育活動の大きな特徴の1つになっているといえるでしょう。さらには、ここ数年におけます各資格の国家試験の合格率、及び、全学的な就職率の高さは、授業評価アンケートの結果として表れている学修姿勢や態度をもって授業を中心とした学修活動に臨み、そうした学修を積み重ねてきた結果であり、個々の学生さんの成長の証といえるでしょう。

しかしながら、25年度前期におきましても、予習や復習といった授業外学習時間については、十分なレベルに到達しているとはいえない状態といえます。したがって、授業時以外でも受講生が主体的に学修していくことができる授業作りとそのための支援の在り方を検討していくことが、引き続き本学に求められている最重要課題といえます。一人ひとりの学生さんとの丁寧な対話を続けていくことによって、この課題の解決をめざしていきたいと思っております。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

授業コード：

授業科目名： 全 体

受講者数： 10097名

担当教員名：

回答者数： 6044名

学科	人間科学部 社会福祉学科 1011	人間科学部 医療福祉学科 視能訓練専攻 326	人間科学部 子ども教育学科 672	人間科学部 社会創造学科 169	人間科学部 医療心理学科 臨床発達心理専攻 9	人間科学部 理学療法学科 0	心理学部 心理学科 1735	保健医療学部 理学療法学科 1272	保健医療学部 作業療法学科 263
----	-------------------------	----------------------------------	-------------------------	------------------------	----------------------------------	----------------------	----------------------	--------------------------	-------------------------

学科	保健医療学部 言語聴覚学科 587	学年	1年次 2491	2年次 2298	3年次 1042	4年次 213
----	-------------------------	----	-------------	-------------	-------------	------------

設問No	設問文	1	2	3	4	5	*全平均
		そう思う	やや そう思う	どちらでも ない	あまりそう 思わない	そう 思わない	

A.あなた自身について

①	この授業への出席割合は 1.毎回 2.ほとんど 3.3分の2ぐらい 4.半分ぐらい 5.半分未満	3461	2008	475	32	30	4.47
②	授業に積極的に参加した	3048	2173	612	119	47	4.34
③	この授業1回あたりで予習や復習に費やした時間は 1.2時間以上 2.1時間以上~2時間未満 3.30分以上~1時間未満 4.30分未満 5.全くしていない	314	717	1477	1786	1710	2.36
④	授業を受けて、関連領域をさらに深く勉強したくなった	2209	2406	1009	248	125	4.05
⑤	シラバスで掲げられている到達目標を達成できそうだ	1983	2522	1239	187	69	4.03
⑥	この授業全般についてあなたは 1.満足である 2.やや満足である 3.どちらでもない 4.やや不満である 5.不満である	2725	2064	939	181	92	4.19

B.授業や教員の教え方について

⑦	学生が集中しやすい授業だった	2916	1924	833	244	88	4.22
⑧	授業は質問や意見などを発言しやすい様子であった	2301	1814	1274	387	226	3.93
⑨	学生の理解度を確認しながら授業が行われていた	2474	1991	1073	299	162	4.05
⑩	授業の学習目標を学生に伝えていた	2861	1993	906	137	102	4.23

